元気のヒ・ケ・ツ

2019年8月発行

足立の商人・創人

【編集・発行・問先】
足立区産業経済部産業振興課
「元気のヒ・ケ・ツ」製作チーム
3880-5869（直通）

江戸刺繍

（足立区千住宮元町）

伝統工芸士　竹内　功さん（74歳）

優秀技能者　東京マイスター
東京刺繍協同組合　理事長
東京都伝統工芸士会　理事
刺繍教室「和繍」　主幹

「”次どうしよう”　を楽しむ！」

千住で3代にわたり江戸刺繍を営む竹内さん。江戸刺繍を52年にわたり元気に続けてこられた竹内さんに「元気のヒ・ケ・ツ」をお伺いしました。

竹内さんの「元気のヒ・ケ・ツ」を3つにまとめると！

①自分で考えて自分でつくる楽しい仕事
②毎日何十回にもわたる階段の上り下り
③長年にわたる生き物のお世話

取材当日は奥様もご一緒に色々なお話をしてくださいました。では、インタビューをご覧ください！

お仕事を始めたのはいつですか？

大学へ行ったので22歳から家業として始めました。でも、16歳のときに「やってみないか」と言われてやってみたら出来たんです。まだ忙しい時代でしたので、夏休み等、休みの時はあてにされていました。そのころ、多い時は家に20人位職人がいて僕と同じ年代で男性も5、6人いて女性もいて。そうすると毎日競争でしたので、そういう環境もあり刺繍する手が自然に早くなったのだと思います。

当時は、どのようなお仕事をされていたのですか？

当時は問屋さんからの仕事がほとんどで、流通の着物の作り方は全部分業なんですよ。だから、図案を描く人、下絵を描く人、糊おきする人、友禅する人、金で仕上げする人、それで出来上がってきて、最後が刺繍なんです。

（写真左）
右は昔ながらの刺繍。

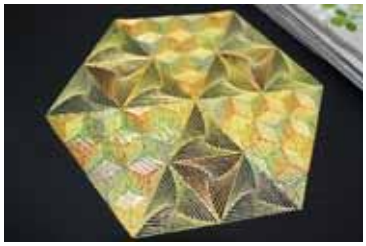
左は竹内さんオリジナルの作品。

（写真右）左から銀系・プラチナ系・本金糸。
これらの糸は絹糸を芯にして、それぞれの箔を巻きつけている。江戸刺繍の糸は全て絹を使用。

奥様曰く「うちで、刺繍した帯や着物はこの後仕立て屋さんに行くんですが、うちで刺繍したものは裏も綺麗なんですよ。きちんとした刺繍がしてあれば、仕立て屋さんも、これは大事に仕立てなきゃって気持ちになると思っています。やっぱり人間って「心」が大切で、いくら機械化されたと言えども、最終的には「心」。大事にしたいですね。」とのこと。

個人の仕事をされるようになったのはいつからですか？

個人的に外（デパート）でオリジナルを展示して注文をうけるようになったのは25年くらい前からです。自宅で教室も始めて22年ぐらいになります。流通の仕事をしているときには、頼まれた仕事をきちっと納品する。そうすると余計なことは考えなくていいですが、自分でものづくりを始めたら、今もこういう風にやりながら、次どうしようかなって作業している時はいろんなことを考えています。図案考えたり、縫い方考えるのは一番大変なんですが、始めると本当に楽しんでやっています。



両写真とも竹内さんオリジナルの作品。刺し方はすべて昔からある技法。色の配色と正確な刺繍の技が立体感を持たせる。（写真上）「文駒縫い」（あやこまぬい）は商標登録されている。

お仕事以外の楽しみは何ですか？

盆栽と海水魚を育てることです。昔はウサギや蛙も。犬も飼ってたこともあります。うちの事情わかっている人は、お世話が忙しくて、いつ仕事してるんですかって言われることも。（笑）

つい深呼吸したくなる、マイナスイオンたっぷりの屋上。自然と笑顔がこぼれます。

何かを育てるということは「絶対」ということがないので面白いんです。盆栽をやっていても、僕は春の新芽の方が好き。秋の紅葉より好きですね。毎日毎日膨らんでいくのを見ていると、やっぱり生きてるなって思います。

食事や運動で気を付けていることはありますか？

運動って特別やってはないんですが、家の中を上がったり下りたり、1日何十回もします。（※1階の海水魚と2階の作業場と3階屋上の盆栽）あと、1週間デパートで地方行くと結構朝歩いています。名古屋に行くときは、名古屋栄っていうところから名古屋城まで歩いて30分ぐらいのいいコースがあるんです。

元気のヒケツは何ですか？

動けることが続けられることだと思います。ちょっと具合悪いと完全に動けなくなるから。あと昼寝も良くしますが、まずじっとしていることがないんです。歩きながらゴミ拾っている。習慣ですね。

「とにかく、この家の伝統ですね。98歳で亡くなったお母さんも何でもやることが早かったんです！」と奥様からも。　**働き者の血筋は太鼓判！**

「お仕事を頼まれた時、刺繍がしにくい生地もあるんですが、うちの人は、これは出来ないから、と言って断ることはほとんどありません。」（奥様）

「頼まれたことやれなかったら職人じゃないからね。」（ご本人）

「かっこいい！」（取材班）

～編集者より～

次から次へと見せていただく作品に、感嘆の声を上げているうちにあっという間に取材終了！とても手先が器用で、なんでもこなす竹内さん。奥様にも取材にご協力頂き、私生活から仕事まで、夫婦二人三脚が元気のヒケツ！